

## 献辞

齊藤正先生は、2020年12月に古希を迎えられ、2021年3月末をもって駒澤大学を定年退職されます。古希をお祝い申し上げますとともに、40年間にわたり駒澤大学および経済学部の発展に貢献されたことに心より感謝申し上げます。

齊藤先生は、大阪市立大学商学部卒業後、大阪市立大学大学院経営学研究科修士課程を経て、1980年3月に大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程を単位取得満期退学されました。1980年4月に駒澤大学経済学部助手として着任され、1981年4月には講師、1985年4月には助教授、1991年4月には教授に昇任され駒澤大学における研究と教育の充実・発展に努めてこられました。他方、経済学部商学科主任(2003年4月～2005年3月)として、経済学部の運営を担われました。また、駒澤大学副学長(2009年4月～2013年3月)として、駒澤大学教学の発展に寄与されるとともに、学校法人駒澤大学常任理事を兼務され、2008年に発生した巨額損失後の駒澤大学の財政再建に尽力されてきました。

ご研究については、1995年4月から1996年3月までホーヘンハイム大学(ドイツ連邦共和国)にて協同組合制度研究所客員研究員として従事された後、2003年には、ご著書『戦後日本の中小企業金融』(ミネルヴァ書房)を上梓され、2005年6月に大阪市立大学より博士(商学)を授与されております。同書は、中小企業・中小企業金融専門金融機関の再建・再生に日本経済の持続可能な成長・発展のための展望を見出した労作であり、学界においても高く評価されています。また、近年の疲弊する地域経済の再生に向けて、研究成果に基づき地域再生の方向性や地域金融のあり方を積極的に提言されています。

齊藤先生は、教育研究活動の一環として、学協会の運営など社会的活動も活発に行われています。学協会では、信用理論研究会理事(2014年5月～2018年5月)、日本協同組合学会常任理事(2001年10月～2005年10月)・常任理事副会長(2007年～2009年)を歴任され、学問・研究の発展に寄与されています。また、社会貢献活動の一環として、実務者が中心の業態横断的な「協同金融研究会」の運営に長年携わられており、代表(2007年5月～2009年5月、2013年5月～現在)として、地域経済の持続的発展に果たす協同組織金融機関(協同金融)の在り方や取り組むべき課題を提言するなど、協同金融の発展に貢献され、研究成果を積極的に社会に還元されています。

齊藤先生におかれましては、健康体調維持に気を配られており、今後ともご健康にご留意いただき、ますますご活躍されることを祈念するとともに、私たち後進を導いていただきますようお願い申し上げます。

経済学部長 岩波文孝